

唐門修復情報

うるし 漆工事 Vol.4

・下地を補強するために 2020. 11. 1

修復箇所を平滑にした後に、木の割れ防止や、やせた箇所の補強を行うため、麻布と糊を使用した布着せ作業を行います。糊は漆・米粉・小麦粉を混ぜて作製したもので、小麦粉は糊の粘り気を出すために使用します。糊を補強箇所全体に均一に塗り、その上から麻布をかぶせます。糊がはみ出した箇所は掻きだして全体的に伸ばしていきます。糊が乾燥した後に余分な麻布を裁断し布着せ作業は完了です。

布着せ作業の後は、生漆に地の粉や砥の粉を混ぜ合わせた漆錆を木地表面全体に塗る錆付け作業と、漆錆を乾燥させ水研ぎをする錆研ぎ作業を行います。錆付け作業は補強面を綺麗にし、錆研ぎ作業で表面を整えて漆を入り込みやすくします。この作業を繰り返し行って下地を補強し、作業は終了となります。次は漆塗の作業を行います。

※1 粒の粗い土。生漆と混ぜたものは厚めに付けることができるので、凸凹を補修し、木地を整えます。

※2 粒の細かい土。生漆と混ぜたものは、ツルツルしているので化粧錆として使用し、漆を塗りやすくします。



▲ 柱に糊を塗る作業



▲ 麻布を張り付けた柱



▲ 錆研ぎ作業中の柱



▲ 錆研ぎ作業を終了した柱